

二〇二四年度入学試験問題

国 語

試験日 二〇二四年二月四日(日曜日)

開始時刻 午後一時

終了時刻 午後二時

注 意 事 項

- 一、この冊子は二十ページです。落丁、乱丁、印刷の不鮮明などがあつた場合には申し出て下さい。
- 二、解答はかならず解答用紙(マークシート)の指定されたところの番号をマークしてください。
- 三、解答用紙の受験番号欄には、かならず受験番号(七ケタ)を記入し、その番号をマークしてください。
- 四、解答用紙への記入は黒鉛筆を、解答を消す場合は、プラスチック消しゴムを使用してください。
- 五、解答用紙は試験が終了したら、かならず提出してください。
- 六、試験室内で配付された問題用紙は、持ち帰って結構です。

一 次の文章を読み、後の問に答えなさい。なお、設問の都合で本文の段落に ①～⑤ の番号を付してある。また、設問の都合上、表記を改めたところがある。

① 文章のなかで他の言葉との関連から離れて、ある言葉が融け出して氾濫してしまふような場面があります。そんな言葉の使い方では、当然のことですが詩にはなりません。官僚的な散文としても間違いなく失格でしょう。

② それはどんな場合でしょうか。自分が出すぎて、いる場合なのです。官僚的に **ア** 文体を書く人には自分がないとも言えそうですし、怒っている人間からは高度な精神活動は飛び去つて、とも言えるのに対して、ここで触れる人間のあり方には自分があります。 **A** 自分を主張しすぎる、という場合にほかなりません。 **B** それは、怒っているのは別の意味で

自分に閉じこもつて、とも言えそうです。自分だけは確かであるという〈実体としての「個人」〉が思い出されます。 **③** 文章表現で言えば、それは自分の思いを言葉に込めすぎてしまう場合なのです。誰にでも、ある特定の言葉が好きということはあると思います。 **C** 過ぎ去つた青春を過ごした地名とか。その言葉には自分の思い出がいっぱい詰まっています、それに思いを致しただけで次々と思ひ出が噴き出してくるようなものです。それこそマルセル・ブルーストが『失われた時を求めて』のなかで見事に描いたあの「マドレーヌ経験」のようになります。紅茶に浸したマドレーヌを口に含んだとたんに、それを

食べたことのある過去の一時点に自分が戻ってしまったかのように、当時の思い出があふれ出てくる経験です。

④ そういう事態がありうることで自体が問題なのではありません。そうではなくて、いま私たちが考えている事柄との関連では、思い出いっばいの何らかの言葉を文章に記すときに書き手がその言葉とどう向き合うかが問題なのです。書き手のその思い出は読者には共有されていないことに注意してください。そんな思い出の詰まった言葉を使うとき、その思い出に乗りながら文章を書いても、読者との間には **イ** が生じてしまふと思いませんか。

⑤ 自分にとってはその思い出に密接に関わる言葉がある種の輝きを伴っていたとしても、たいていの場合、読者はその輝きを共有できないということです。アランはそういう事態を「悪い散文は、見せかけというよりもむしろ亡霊と幻にみちてい

て、おのおのの語がめいめい自分勝手に輝き踊っている」（『諸芸術の体系』）と表現しました。そうやってしまうと文体は平板になると彼は言います。ある単語があまりに思い出深いために、著者がそれに寄りかかるところで生じてしまう平板さです。⑥ まさにそういう事態において、〈言葉の融解〉が起こるのだと言えないでしょうか。なぜなら各語が自分勝手に輝き踊っているのですから、他のいろいろな語との間の〈つながり〉が曖昧になってしまうのです。

⑦ 前に接続詞について触れたとき、文と文とがアーチの石のようにお互いに支え合わなくてはならないという話をしましたね。ここでは文と文とがではなく、単語と単語とが支え合うことなく、勝手に踊りだしてしまっています。アーチならば崩れるでしょう。異常な熱さを帯びた特定の単語が、その熱で自分も周りの単語も融かしてしまうような事態です。こうして、そういう単語が主張しすぎてまとまりがなくなってしまうと、〈文章を構成する各単語のつながりによって成立するかもしれない何か〉が見失われてしまうのです。

⑧ **D**、ここで失われてしまうものとは何でしょうか。それこそが「思想」ではないでしょうか。逆から言えば、そういう単語間のつながりを見事に付けつつ思想を形づくったとき、散文は〈アーチのように一つのガッチリとしたまとまりをもつものとしての輝き〉を放ち始めるのかもしれない。

⑨ 実際アランは次のように書いています。「優れた散文は普通語³⁾によって表現された普通の観念のうちに成立する」（『諸芸術の体系』）と。なぜ「普通語」とわざわざ言うのかは、もうわかりますよね。自分には当たり前に見える記憶も他者と共通ではありえないことをきちんと意識したならば、自分にとつてしか輝き踊るはずもない単語など使わずに、普通の語彙を使って〈全体のまとまりとしての輝き〉を狙うだろうからです。

⑩ そういう普通の語彙は著者（やその周辺の人々）の心のうちにしか存在しないようなことなど言いません。言い換えれば、内輪受けするような言葉ではなく、皆に共通の言葉です。そういう共通の素材を使って、いかにして見事なまとまりをもつ散文を書くかが課題なのです。

⑪ 少し読んでみれば平板な散文というものはすぐにわかります。読者を思索させないのです。**E** 思索させるような舞台

を整えていないからです。せいぜい著者が味わったかもしれない場面と似た状況を読者の側に思い出させて、その本を読むという営みそのものからいつの間にか外れさせてしまい、ついには本を離れて読者自身の夢想へと誘うのがオチです。そんなとき ウ など書き手の側に成立していそうにありませんし、読み手の側がそういう類のものを受け取ることもありえないでしょう。

(米山優『つながりの哲学的思考——自分の頭で考えるためのレッスン』より)

(注1) マルセル・ブルースト —— フランスの小説家。

(注2) アラン —— フランスの哲学者、モラリスト。

(注3) アーチ —— 門や橋げたなどに見られる、石材などを積み重ねて造った、上方が半円形の構造物。

問一 空欄 A、E に次の①～⑤の語をすべて一度だけ用いて補ったとき、空欄 B、D に入る最適な語を選び、その

番号をマークしなさい。解答欄はBが 1、Dが 2。

- ① たとえば ② むしろ ③ なぜなら ④ では ⑤ しかも

問二 傍線部(1)「詩にはなりません」とあるが、それはなぜか。その説明として最適なものを選び、その番号をマークしなさい。

い。解答欄は 。

- ① 書き手が考えている内容が抽象的でむずかしすぎて、読み手は理解することができないから。
- ② 書き手の自己顕示欲があまりに強くて、その勢いに押された読み手は興ざめしてしまうから。
- ③ 書き手が自分の固いカラのなかに閉じこもっており、読み手は当惑を覚えるだけであるから。
- ④ 書き手の思い出が詰まった言葉を使っており、読者は書き手とその思いを共にできないから。
- ⑤ 書き手は自分の経験を表現しており、虚構が読みたい読み手はあまり面白さを感じないから。

問三 空欄

に当てはまる最適な言葉を選び、その番号をマークしなさい。解答欄は

- ① 凝固した
- ② 飛躍した
- ③ 膨張した
- ④ 分裂した
- ⑤ 混乱した

問四 空欄

イ

に当てはまる最適な言葉を選び、その番号をマークしなさい。解答欄は

5

。

- ① その能力の高低によるズレ
- ② その記憶の有無によるズレ
- ③ その心情の強弱によるズレ
- ④ その価値の軽重によるズレ
- ⑤ その理解の深浅によるズレ

問五

傍線部②「悪い散文」とあるが、

ここではどのような散文のことか。その説明として最適なものを選び、その番号を

マークしなさい。解答欄は

6

。

- ① 単語が融け出して氾濫してしまっているために、文章内容が個性的な輝きを持たなくなっている散文。
- ② 単語から広がるイメージをおろそかにしているので、複雑で込み入った文体ではなくなっている散文。
- ③ 単語が詩的ではなく、官僚的に使われているために、思いが伝わらず、読みにくくなっている散文。
- ④ 単語が自らの辞書的な意味を逸脱して自己主張しているために、文意が把握しにくくなっている散文。
- ⑤ 単語が文章を構成する他の単語とのつながりから離れてしまい、まとまりを持たなくなっている散文。

問六 傍線部(3)「普通語」とあるが、これはどのような言葉なのか。その説明として最適なものを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 。

- ① 意味がむずかしく、理解できない言葉ではなく、皆が共通に用いている言葉。
- ② 特別な意味や思いが込められた言葉ではなく、誰もが普通に用いている言葉。
- ③ 面白みに欠ける言葉ではなく、読者を夢想の世界へと誘うことができる言葉。
- ④ 深遠な内容を示す言葉ではなく、通り一遍の表面的な内容を示している言葉。
- ⑤ 読者を思索へと誘導するだけでなく、読者の思索を的確に表現できる言葉。

問七 空欄

に当てはまる最適な言葉を選び、その番号をマークしなさい。解答欄は

- ① 現実という形を持ったもの
- ② 言葉という素材を使ったもの
- ③ 散文という型をなしたもの
- ④ 思想という名に値するもの
- ⑤ 経験という姿になったもの

問八 本文を二つの段落に分けるとすると、次のうちのどこで区切るのが適当か。二つ目の段落の先頭の番号として最適なものを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 9。

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 9 | 8 | 7 | 6 | 5 |

問九 本文の内容に合致するものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 10。

- ① 悪い散文とは、みせかけだけは立派であるが、中身は書き手の思いが何も入っていない文章である。
- ② 良い散文とは、自らの感情を表面に出すことなく、客観的に自己を対象化して書かれた文章である。
- ③ 優れた散文とは、普通の語彙を用いることで、本を読むことを通じて読者に思索させる文章である。
- ④ 平板な散文とは、特徴がないために、読んでいても平板であるのかどうか分からない文章である。
- ⑤ 悪い文章か良い文章か、優れた文章か平板な文章かは、書き手の語彙力によって違いが出てくる。

二

次の文章を読み、後の問に答えなさい。なお、設問の都合上、表記を改めたところがある。

あくまで社会的な代償を支払い獲得された対象である貨幣を費やす実践として、消費には慎重さが求められる。フランスの社会学者ピエール・ブルデューを代表とした趣味分析が、一定の有効性を持つているのもそのためである。ブルデューは人びとが消費する文化財を、生まれや階層、教育に基づく趣味や思想を表現するものとみなしたが、そうした分析が可能なのは、貨幣が多くの場合、社会的従属の代わりに手に入れた代償としてあり、その価値を私たちが合理的に考慮して使用していると想定されているためなのである。

もちろん遊びや気まぐれでおこなわれる消費もある。しかし高価なものを買うふるまいが往々にして金を使い慣れないことの証となってしまうように、社会が張りめぐらせた不可視のルールを意図して超えることはむずかしい。タワムれの消費にさえ、場合によっては何かしらあえてするものとしての意味が読み取られてしまうからであり、そうして他者の読み取りの可能性を二重三重に予期しておこなわれるという意味で、消費には他者の視線が纏わりつき、それが消費に既存の社会的な秩序を再生産させる役割を担わせているのである。

貨幣を媒介として、消費はこうして「ア」のコミュニケーションにはない「誠実性」を担い、だからこそSNSの興隆にもかかわらず特別の役割をはたしてきた。複雑化する現代社会のなかで、消費はそれを通して自分⁽¹⁾が何者であるかを否応なくあきらかにする手段として利用されてきたのである。

とはいえ一方で消費はたんに他者との交流を前提としたイ⁽²⁾なコミュニケーションのひとつに回収されるわけではない。そのことをみる上で重要になるのが、貨幣の、おそらくは先にみた以上に本質的な特徴である。貨幣が大切になるのは、社会的なさまざまな苦勞を経て手に入れられるからだけではなく、それがいかなるモノにも縛られない無際限の可能性としてあるからなのではないか。貨幣を持つかぎり、私たちはいつ、また何を手に入れるかを先延ばしにすることができる。特定のモノに縛られないそうした可能性こそ、そもそも終わることのない価値増殖の追求、つまりA⁽³⁾を可能にしてきたのである。

だが消費においては、この大切な未来の可能性が放棄される。貨幣は限定された有限の可能性しかないモノ（やコト）へと換えられるのであり、その意味で消費は「投資」や「交換」のようにただ合理的にのみ理解できる行動ではない。実際、ジョルジュ・バタイユは、消費を有用物を無へと送り返す「蕩尽（注2）（consumation）」とみなしている。得られるものが無であるかもしれない「賭け」や、生命を破壊する「犠牲」と同様に、有用物が生産のためではなく快楽やまたはたんなる無のために使用されるという意味で、消費は非合理的な「蕩尽」としてであるとバタイユは考えたのである。

ではにもかかわらず、なぜ消費は実行されるのだろうか。バタイユはそれを合理性から外れ、自己を他者から遮断することそのものに快楽があるためとみなしている。合理性を侵犯することで、行為者は自分が通常の社会のルールを外れる特別の者であることを自他に対して際立たせる。同様の事態はたとえばソースティン・ヴェブレンのいう「B」においても確認される。ヴェブレンは、金持ちは自分の富を誇示するために購買活動をおこなうとみたが、そうした誇示の意味が読み取られるのは、「本来」合理的であるべき消費がここでは非合理におこなわれ、そしてそれに耐えられるのは金持ちだけと暗にみなされているからなのである。

「蕩尽」としての消費はこうして一種非合理的なものとして現れる。ただしこの場合はなお消費が、自己が特別のものであることを示す一種「ウ」なコミュニケーションにとどまっていることも忘れてはならない。しかし消費はいつでもこのようにコミュニケーションを志向するものとして現れるわけではない。貴重な貨幣が投げ出されることは事実だが、むしろ消費においてよりしばしば切実に問われるのは、その代わりにいかなる快楽や満足が得られるのかである。返礼を欠いた「犠牲」や、何を得られるか不確かな「賭け」と異なり、無制限の可能性を持つ貨幣が費やされるからこそ、それに引きあう代償や快楽を得ることが、消費ではしばしば中心的な課題となる。

ただし大切なことはこの場合、こうしてある意味で合理的な取引の結果として手に入れられる対象が、他者にとっていかなる有用性や機能があるかどうかは、かならずしも大きな意味を持たないことである。投げ出された貨幣の無制限の可能性を代償する価値が私にとって何ものなければ、たとえそれが他の人にとって価値があったとしても、消費においてはあまり意味がな

い。他者にとつての価値をあくまで焦点としておこなわれる「投資」や商業的な「交換」と、消費はこの意味ではつきりと区別されるのである。

この意味で消費には、何かを伝えようとするコミュニケーションの水平的なゲームの他に、他者を相対的に置き去りにして、むしろ自己の快楽や満足を食欲に追求する垂直な私的なゲームが含まれていることになる。後者のゲームにおいて重要になるのは、あくまでこの「私」にとつて消費が何を意味するかであり、他者にとつてそれが何を意味するかではない。だからこそ消費には終わりが無い。無制限の可能性を持つ貨幣に、完全な代償は存在しないが、しかしそれゆえにこそ、できるだけ多くの快楽や満足を求めて、消費は続けられていくのである。

間違えてはならないのは、こうしたコミュニケーションとしての消費のゲームと私的な探求としてのゲームは、前者から後者から生まれるといった時間的な前後関係や、はたまたどちらが優れているといった優劣の関係を取るわけではないことである。「第四の消費」論や「正しい」消費(注4)といった議論は、消費に時系列的な変化をみることで、他者とのコミュニケーションを時代遅れの(注5)コクフクすべき消費とみなす傾向がある。だが、そうした見方には無理がある。商品に他の商品との違いを示す示差的な価値が備わっている以上、他者との水平のゲームは多かれ少なかれ、つねにすでに続けられているからである。

他方、それに並行しつつ、自己と関わる垂直なゲームとしての消費も、長い時間のなかで私たちにさらなる探求を促し続けてきた。消費に何かしらの時間的変化をみたいのであれば、こうした私的消費そのもののうちに蓄えられた具体的な歴史をむしろみただほうがよい。私的消費は、具体的なモノやコトと関係を結ぶことで固有の歴史を織りなしていく。

(貞包英之ただかねひでゆき『消費社会を問いなおす』より)

(注1) ジョルジュ・バタイユ —— フランスの哲学者、作家。

(注2) 蕩尽 —— 財産などを使い果たすこと。

(注3) ソースティン・ヴェブレン —— アメリカの経済学者、社会学者。

(注4) 第四の消費 —— モノの真の価値や人との関係を重視した消費のこと。

(注5) 「正しい」消費 —— 環境やあるいは自分の体に優しいとされる商品を購入する消費のこと。

問一 空欄 、、に入る漢字の最適な組み合わせを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 。

- ① ア 無償 イ 非合理的 ウ 絶対的
- ② ア 有償 イ 非合理的 ウ 絶対的
- ③ ア 有償 イ 非合理的 ウ 逆説的
- ④ ア 有償 イ 合理的 ウ 絶対的
- ⑤ ア 無償 イ 合理的 ウ 逆説的

問二 傍線部(1)「自分が何者であるか」とあるが、このような意味を持つ言葉はどれか。最適なものを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 。

- ① プライバシー
- ② アイデンティティ
- ③ オリジナリティ
- ④ エゴイズム
- ⑤ セールスポイント

問三 空欄 A に入る最適な語句を一つ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は

13。

- ① 社会主義 ② 民主主義 ③ 資本主義 ④ 功利主義 ⑤ 全体主義

問四 傍線部(2)「なぜ消費は実行されるのだろうか」とあるが、筆者が挙げている主な理由は何か。その説明として最適なも

のを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 14。

- ① 非合理的な消費をおこなうだけの財力を持っていることを、他者に誇示することができるから。
 ② 自分が通常の社会的ルールから外れる特別な存在であることを他者に示すことができるから。
 ③ 他者にとつての価値ではなく、自分にとつての何らかの快楽や満足を得ることができるから。
 ④ 貨幣が持つ無際限の可能性を投げ出すだけの、普遍的な価値を代償とすることができるから。
 ⑤ 有用物を無にしたり、生命を破壊したりする意味と同様の意味を獲得することができるから。

問五 空欄 B に入る最適な語句を一つ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は

15。

- ① みせびらかしとしての消費
 ② こころくばりとしての消費
 ③ そそのかしとしての消費
 ④ にぎやかしとしての消費
 ⑤ おもいあがりとしての消費

問六 傍線部③「垂直な私的なゲーム」とあるが、このようなゲームとしての消費の説明として最適なものを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 16。

- ① 貨幣が持っている無際限の可能性を發揮し、誰にでも意味のあるものを目指している。
- ② 自分とは何者かを伝えるために、他者とのコミュニケーションを取ろうとする。
- ③ 商業的な「交換」や「投資」で得ることのできる価値以上のものが獲得できる。
- ④ 他者との関係を断ち切っているために、時代遅れで、価値のないものである。
- ⑤ 具体的なモノやコトと関係を結ぶことによって、固有の歴史を持つことになる。

問七

本文中の貨幣の説明として最適なものを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 17。

- ① 貨幣は、何かに縛られることなくいかなるモノとも交換ができ、また無際限な使用も可能である。
- ② 貨幣は、社会的な代償を支払い獲得したもので、いつ、また何を手に入れるかを先延ばしできる。
- ③ 貨幣は、限定された有限の価値しかないモノを、無限な価値を持つモノに変換することができる。
- ④ 貨幣は、貴重な価値を持つものなので、遊びや気まぐれの消費のために使用することはできない。
- ⑤ 貨幣は、消費ではなく投資に用いることで価値の増殖を図り、人に満足をもたらすことができる。

問八

本文の内容に合致するものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は

18

。

- ① 消費は、他者とのコミュニケーションを一切おこなうことなく、自己の中で完結している。
- ② 消費は、バタイユが言うような、非合理的な行為である「蕩尽」という意味を持っていない。
- ③ 消費は、合理的におこなわれたのか、そうではなかったのかを、自分で判断するしかない。
- ④ 消費は、他者を相対的に置き去りにし、自己と関わる垂直なゲームとしてもおこなわれる。
- ⑤ 消費は、既存の社会的秩序を再生産する機能を持っており、私的要素を持つものではない。

問九

① 「タワムレ」、② 「コクフク」の波線部と同じ漢字を含むものをそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。
い。解答欄は①が 19、②が 20。

- ① シンギを確かめる
② ナンギしている
③ テキギ休憩をとる
④ モギ試験を受ける
⑤ ギキヨクを執筆する
- ① コクジした作品
② コクメイに調べる
③ シッコクの闇
④ 病名をコクチする
⑤ コクゲンに間に合う

三

次の各問に答えなさい。

問一 誤字を含むものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 21。

- ① 複雑怪奇で動機も不明な事件の全容を明らかにする。
- ② 彼は透徹した洞察力を持った哲学者だと目される。
- ③ 市井の人々の生活感情を美的に昇華した作品である。
- ④ 勧善懲悪の価値観のみでは、国際問題の解決は難しい。
- ⑤ 装飾に意匠を凝らし、個性的な雰囲気醸し出した。

問二 誤った読み方のものをそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は(1)が 22、(2)が 23。

- | | | |
|----------------|----------------|--------------|
| (1) ① 本意 (ほんい) | ② 頭目 (とうもく) | ③ 鬼火 (おにび) |
| ④ 怒気 (どき) | ⑤ 望外 (もうがい) | |
| (2) ① 苦い (まずい) | ② 慕わしい (したわしい) | ③ 呈する (ていする) |
| ④ 滴る (したたる) | ⑤ 結わえる (ゆわえる) | |

問三 () に入る言葉が【 】にない文を一つ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は

24

。

【あつめる・あげる・しのぶ・かく・きかせる】

- ① 寝首を () 。
- ② 血道を () 。
- ③ 世を () 。
- ④ 幅を () 。
- ⑤ 波紋を () 。

問四 傍線部の言葉の使い方が適切でない文を一つ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は

25

。

- ① すっかりつむじを曲げて返事もしてくれない。
- ② その一言が琴線に触れたのか、怒鳴りつけられた。
- ③ 会って見たら似ても似つかない別人だった。
- ④ この仕事のケリがついたら休暇をとることにしよう。
- ⑤ 明日はわが身と思つと身につまされるものがある。

問五 傍線部の言葉の使い方が適切でない文を一つ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は

26

- ① 初対面なので試金石を交換するだけに終わった。
- ② 経営陣の考えていることは砂上の楼閣に過ぎない。
- ③ 駅前の開発計画は未だ青写真の域をでていない。
- ④ 社長の鶴の一声で経営方針の変更が決定した。
- ⑤ 旅館から見た景色はまるで桃源郷のようだった。

問六 対義語の関係になっていないものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は

27

- ① 過激 ⇄ 穏健
- ② 質素 ⇄ 華美
- ③ 模倣 ⇄ 破壊
- ④ 内容 ⇄ 形式
- ⑤ 疎遠 ⇄ 親密

問七 同義語の関係になっていないものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は

28

- ① 手練てだれ || 巧者
② 我慢 || 忍耐
③ 妥協 || 及第
④ 欠陥 || 不備
⑤ 細心 || 綿密

問八

①、②のカタカナの部分と同じ漢字を使うものを、それぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は①が

29

、②が

30

① 前代末モン

① モン診表を出す

② 相モン歌を詠む

③ モン扉を閉ざす

④ モン切型の挨拶

⑤ 天モン学を修める

② 免許カイ伝

① カイ勤賞をもらう

② カイ心の笑みを浮かべる

③ カイ札口を通る

④ カイ級意識が強い

⑤ 幼い頃をカイ願する